

彙報

●シルボン・レ非氏の講演

二月 Collège de France の教授として世界的に名を轟かした M. Sylvain Lévi 氏入浴せられたるを以て京都帝國大學は學賓として優待し且つ一場の學術講演を請ひしに快諾を得たれば、二月二十六、二十七日の午後二回に互りて古代印度の文化なる題目の下に法學部第四教室にて公開講演を開きしが、氏は第一回は婆羅門の文化を第二日は佛教の文化を講述せられたり、今其の講演の要領を摘記せんに、

印度の文化は寧ろ婆羅門教の文化であつて、佛教の文化でない。例の四姓のカスト制度が印度民族の文化を形作つた根本の基礎である。佛教は此カストを破らうとしたもので婆羅門教よりも人間的全人類の文化である。紀元前五六世紀頃からの世界的大革命の機運に應じて一時佛教は勢力を得て阿育王迦膩色迦王等の熱心な援助を得たが、紀元一千年頃には全印度の國內から忘れ

られて、却つて外國に普及した。印度國內は嚴格で實は可なり餘裕のある婆羅門教の文化を保守して外國人の侵入に對抗して來た。そしてなほこの文化を守らうとして努力してゐる。佛教に對する憧憬の念も近年各所に現はれてゐる。が要するに世界に獨特な、燦爛たる印度文化は主として婆羅門教の文化であつて、この方面で佛教は第二義の役目しか演じてをらぬ。三千年一日の如く一同の文化を維持し擁護してゐるのが印度民族である云々。

●京都帝國大學文學部史學科

本學年講義題目

史學研究法

每週二原 教授

國史概説(中世)
武家時代經濟史觀
近世國民思想の發達

三浦 教授

國史概説(古代)
古代史籍解題
國史地理

喜田 教授

國史概説(近世)
古代文化の發達
國史新著批判

西田助教授

古文書學總説

二 中村 講師

東洋史概説(古代)

二 桑原 教授

アラブ人の記録に見えたる支那

二 桑原 教授

東洋史概説(中世)

二 内藤 教授

支那繪畫史(五代以後)

二 矢野 教授

東洋史概説(近世)

二 羽田助教授

支那近時の外國關係

二 原 教授

西方諸宗 教東漸史

二 坂口 教授

最近世史概説

二 植村助教

世界大戰史

二 石橋 教授

西洋史概説(中世)

二 小川 教授

アウグスツス時代

二 植村助教

歐洲封建時代の國家及社會

二 石橋 教授

地理學通論(第一部)

二 小川 教授

政治地理學(境界論)

二 濱田 教授

地理學通論(第一部)

二 足立 教授

地圖學及地質測量學

二 横山助教

伊太利考古學

二 濱田 教授

東洋考古學(六朝以後の彫刻)

二 足立 教授

人類學

● 大正十二年度卒業論文題目

本學文學部に提出せられた本年度の卒業論文の題目の中

史學地理學に關するものは次の通である。(△選科生○委託生)

史 學 科

近世出版法論(國史)

中村喜代三

徳川時代に於ける佛敎界の革新運動(同)

○井川 定慶

安南獨立之事情(東洋史)

杉本直治郎

ナント勅令の廢止に就て(西洋史)

三喜田熊藏

十九世紀以後に於ける愛爾土地制度について(同)

△小林 紀

羅馬共和國の軍事制度(同)

△園田庸次郎

近畿地方ニ於ケル人口ノ分布(地理)

小野 鐵二

文 學 科

芭蕉の俳諧に就て(俳諧觀及俳諧上の特色)(國文)

岩本 朝次

義經記に就て(同)

△粟屋 周祐

哲 學 科

藤原朝を中心とせる淨土敎美術に就て(印度哲學)

△塚本 善隆

宋代哲學が受けたる禪の影響(支那哲學)

○後藤 義豊

歐米於ける藝術教育の史的概観(教育)

秋葉 貞二

使徒パウロの靈の説に就て(宗教)

岩本 秀雄

原始僧團ノ研究(社會)

○伊藤 典孝

● 史學研究會

例會 二月十七日午後一時より京都帝國大學文學部第

五教室にて開催左の講演ありたり。

一、民族大移動に就いて 會員文學士 植村清之助君

歐洲古代末に於けるゲルマニ民族移動の性質狀態に關

する佛獨諸學者の所説を批評しこの移動が國民的集團や戰士の部隊ならで、蠻民の血族團體により行はれしものなる所以を論述せられたり。

一最近歐米史界管見 會員文學博士 三浦 周行君

本講演は本誌に掲載せられあり。

● 讀 史 會

例會 一月三十日午後六時より昨年末歸朝せられたる

三浦教授西田助教を迎へて其視察談を聴くべく學生集

會場に開催出席者兩教授中村講師魚澄富森牧古田鈴木小牧岩橋梅原牧野森下橋川源土田中村井川勝峯加藤中原石川廖徳重小橋等の諸君

一、歐米諸大學の史學研究室 三浦 周行君

佛獨英米の重なる大學に於ける史學研究室の設備及び其特色につき二時間餘に亙つて述べられたるも本誌に起稿せらるゝ筈なるを以て梗概の紹介を略すべし。

一、雜 感 西田直二郎君

余は在外研究員として英國ケンブリヂ大學に在學せしが其動機は同大學教授のビュリー氏論文「歴史は科學なりや」を先年讀みし事あり尙船中にて同學出身者三行を共にし同大學の事情を聞くに及び遂にケンブリヂを選びしなり由來ケンブリヂ大學は自然科學の方面に秀でオクスフォード大學は法文方面に特色を有せるなり出身者に付きて見るも前者はニュートンを出せるに反し後者はグラドストーンを出せるが如し更らに近代の歴史思想を見るに彼のランブレイトの影響は諸方面に及びしが英國にて此遺風を傳へしはハットン氏の人類學是なり即單にフイ

ジカルの方面のみならずソシアルの方面をも取扱ひ此社會を人類學的に研究し宗教美術等を諸民族間に求め之を比較研究するなり同氏も亦ケンブリヂ大學にあり總じて同大學は各方面に自由の精神あらはれ學生々活に於て特に其然るを見るべし云々。

三浦西田兩教授歸朝歡迎會 二月三日午後七時より樹の枝に於て開催出席者は兩主賓の外喜田教授、中村講師、江馬、魚澄、菊池、古田、牧、下川、富森、鈴木、岩橋、牧野、橋川、江藤の諸氏及井川、勝峯、佐古、加藤、中原、徳重、山本、小橋の諸學生なりき勝峯氏の歡迎の辭に次ぎて三浦教授は主として歐米諸大學の史學教室の印象に基き師弟間の關係を説かれ西田助教これを補説せらるゝミころあり、夫より一同記念撮影をなし歡談刻を移して十時過散會せり。

例會 二月二十六日午後六時より學生集會場に開催、出席者は三浦教授、中村講師、魚澄、牧、鈴木、中村、井川、勝峯、末岡、佐古、加藤の諸氏なり講演者及講演要旨左の如し

一、平泉學士の「守護地頭の設置に關する新説の根本的誤謬に答ふ」 牧 健二君

平泉學士は「守護地頭は義經行家の追捕のため臨時に置きしものなり」といふ余の説に對し根本的誤謬を含むものなりて駭して曰はく「守護地頭は決して兩人追捕の爲のみに非ずして全國の行政をも司るものなり又此職は臨時的のものに非ず」と然し吾妻鏡其他當時の史料を熟讀すれば平泉學士の説の誤まれるを知るべく彼「世間不落居之間」といふ事も氏は其後も永くご解すれども全く義經行家の追捕迄ご解すべきものなり此外頼朝の奏狀等を見ても余の説の誤らざるを知るべし云々。

一、歐米に於ける古文書の保有と其研究 三浦 周行君
本講演は逐て本誌に掲載せらるゝ筈。

● 支那學會

例會 一月十七日午後六時より京都帝國大學文學部第五教室にて開催左の講演あり。

一、周易逸文考

日名 靜一君

豫饌會 二月二十四日午後四時より京都帝國大學々生

集會會場にて本年卒業せらるべき支那哲學科後藤義豊東洋史料杉本直治郎兩君豫饌の爲開催、寫眞撮影後開宴左の講演を聽きて午後九時半散會せり

一、宋代哲學の受けたる禪の影響 後藤 義豊君

一、安南史研究瑣言 杉本直治郎君

● アメリカン・ヒストリカル・アツン

シエーション第三十七回年會

American Historical Association は例の如く、昨年十二月二十七日午後より同三十日の午前迄四日間に亘つて其第三十七回の年會をエール大學所在地のニューヘヴンに開けり同地隨一のホテル・タフトに於ける初日の午餐會が Patriotic societies の主催にして先づ Godard 氏の Word and Plans of Connecticut Patriotic Societies に始まりこれに關せる二三の講演ありし中にも National Society の會長なる George Maynard Minor 夫人が亞米利加をして外國の赤化

の影響を受けざらしめんとを會員に向つて警告せる杯開

會早々異彩を放てり。今會期中に朗讀せられたる數多くの論文及び講演討論等を悉くこゝに紹介する能はざるも

今回は Hispanic American History に關するもの多數を占め新説の提唱及び有益なる討論をもこゝに見たり。又

Mississippi Valley Historical Association の聯合の結果、同地方のものも少からず亞米利加に於ける羅馬舊教史及び黑人問題の史觀亦注意に値ひ。其他にては農業史、考古學言語學、古文書學、法制史等に關するもありしが其中古文書學に就きては古文書館員の協議會に於て古文書取扱者の最も重要とし且つ困難とする古文書の分類に關する質問討論の行はれたるを始め、American Philological Association 及び Archaeological Institute of America 本會の聯合會の主題なる Papyri を取扱へる諸講演亦斯學に取りて有益なるものなり而して法律家と歴史家との兩方面より見たる法制史の意義に關する講演に對して寧ろ歴史家の側に立つべきエールの Adams 氏より討論の火蓋の切つて落されたりしは趣味あるこゝに謂ふべし外國史

會員動靜

□入 會

京都帝國大學文學部史學科

(右紹介者 杉本直治郎)

宮崎 市定

京都帝國大學文學部史學科

同

(右紹介者 那波利貞)

山本 道男
廖 温 仁

東京市四谷區仲町二四

東京府下大久保町百人町二四二

(右紹介者 小林秀雄)

高橋 謙

京都市室町頭大谷大學

(右紹介者 橋川正)

筧原 節二

岡山市第六高等學校

(右紹介者 三浦周行)

雪山 俊夫

朝鮮金州專賣局支局

(右紹介者 高木善人)

大曲美太郎

東京市本郷區曙町七

(右紹介者 中村直勝)

荻野仲三郎

こしては米國と密接の關係ある英帝國史及び極東の部を設けられ、後者にありては日本朝鮮の歴史上の問題及び支那現代の史學に關する論文の朗讀ありしが其中エールの朝河貫一氏は On the Evolution of the Rief の題下に論文を讀まれたり而して亞米利加之歐羅巴に負へる精神上の債務に顧みて亞米利加之史家は宜しく歐米の連結を保たざるべからずと論ぜざる會長 Haskins 氏の European History and American Scholarship なる演説(同會雜誌一月號掲載)は傾聽に値ひし國務卿 Hughes 氏の Some Aspects of Our Foreign Relations の演説の要旨は當時逸早く海外電報に依つて世界に報道せられしところなり猶ほ本年の年會はオハイオ州コロンプスに於て開催の事に決し前大統領 Wilson 氏は第一副會長に選ばれたり。(三浦)

會 報

評議員會 二月二十八日評議員會を開催、評議員中の

編纂擔任三名を互選し羽田亨、坂口昂、三浦周行の三氏

當選又新に西田直二郎氏等に編纂委員を囑託せり。

東京市下谷區上野櫻木町二九

三上 義夫

東洋哲學 三〇の一、二

東洋大學

(右紹介者 新村出)

東京市外巢鴨庚申塚

宗教大學圖書館

人類學雜誌 三七の一

東京人類學會

大阪府西成郡玉出町四八九

森 繁夫

東洋思想研究 三、四、五

亞細亞文化協會研究所

東京市外西大久保町三七八

鎌田 正憲

佛敎大學論叢 二四二

佛敎大學論叢社

(右紹介者 岩橋小彌太)

東京市麴町區三番町二八

植村 清二

龍谷大學論叢 二四七

龍谷大學論叢社

(右紹介者 三條西公正)

佐賀市佐賀高等學校

次田 潤

經濟論叢 一六の二

京都帝國大學經濟學會

□退 會

寺石 正路 鈴木 重雅

黑田 源次

史學雜誌 三四の一

國學院雜誌 二九の一、二

國學院大學

□死 亡

玉利 陟 大野 仁夫

宮崎 市郎

大正十年度

確井小三郎

中目 覺

●寄贈交換圖書

Young-Pao (通報)

Paul Pelliot

內藤 雋甫

山鹿誠之助

田中作次郎

東洋學報 一二の四

東洋協會學術調查部

小橋 淺雄

青山 重鑾

新城 新藏

商業經濟 第三冊

長崎高等商業學校

西村 眞次

岡澤 鉦治

三雲祥之助

第八卷 會 報

第二號 一七九(三六一)

小倉 進平 牧野信之助 寺石 正路

中目 覺 稻葉 圓成 田中吉太郎

松田 祐德 宇野米太郎 渡邊幾次郎

源 豐宗 藤森 勝郎 高杉 權藏

中川 義澄 橋口 長一

大正十二年度

丸山 源八(一圓五十錢)片岡 英宗 吉村 茂樹

西村 眞次(八十錢)三上 義夫

清原 貞雄 大曲美太郎 菊竹 實藏

宇野米太郎 南葵 文庫 百濟 市郎

米澤 元健 森 繁夫 大橋 金造

押上 森藏 金山 郁二 菊池 善之

江崎 政忠 樋畑正太郎 吉川 義雄

花見 朔巳 野山 忠幹 次田 潤

奥田 彥 伊藤 祐晃

大正十三年

奥田 彥